



# 研修便り



高知市教育研究所教職員研修班  
平成26年9月3日発行 No.50

## 平成26年度 情報教育担当者研修会

平成26年6月9日（月）実施

### 研修Ⅰ【講話】

講師：総務省四国総合通信局 情報通信部  
電気通信事業課長 渡邊 栄一 氏

#### e - ネットキャラバン「e - ネット安心講座」について

「無料」・「便利」・「設定」には注意！

#### 1 「ネットの現状」「いま、ネットで起きているトラブル」

##### ネット依存

携帯電話やパソコンなどに没頭する「インターネット依存」の中・高校生は全国で推計51万8千人にのぼります。  
〈調査：厚生労働省研究班〉



ネット社会の抱えるさまざまな問題に関しては、情報に対する適切な判断力、各校の情報教育担当者のリーダーシップが重要です。

##### 写真掲載による利用者情報の流出

意図せず、写真とともに、撮影した場所の位置情報が掲載され、自分の居場所や自宅が他人に特定されます。

##### 著作権の侵害

スマートフォンのアプリで違法にファイルをダウンロードし、著作権を侵害することがあります。

##### 『LINE』の危険性

- ・ 見ず知らずの人と友だちになり、トラブルに巻き込まれる
- ・ 学校の友だちなど、グループ内での「いじめ」
- ・ 迷惑メール業者トラブル

##### 個人を特定した不当請求

誘導したウェブサイトから不正アプリをインストールさせ、利用者の電話番号・メールアドレスを取得した上で不当な支払いを迫られます。

#### 2 ネットトラブルへの対処方法

「青少年インターネット環境整備法」により、18歳未満のフィルタリング設定は義務化されています。

##### フィルタリング

有害サイト（出会い系サイト、アダルトサイト、青少年に見せたくないサイト等）の閲覧を制限する機能

※ スマートフォンのフィルタリングについては、無線LAN利用時（Wi-Fi）や、アプリケーション利用時（アプリから直接インターネットに接続する場合）には、フィルタリングサービスが有効にならない場合があります。



※ e - ネットキャラバン「e - ネット安心講座」は、インターネット・携帯電話を通じた犯罪や諸問題に関する情報、実態、その他の対処方法を学ぶことができる出前講座（無料）です。 <https://www.e-netcaravan.jp/>

### 研修Ⅱ【説明】

教育研究所・教育環境支援課

「学校における情報教育・情報環境の充実について」

#### DVD「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」について

四つの課題（①ネット依存、②ネット被害、③SNS等のトラブル、④適切なコミュニケーション）について、八つ（それぞれ二つずつ）のビデオ教材、モデル指導案、授業用の手引書が用意されています。

「指導の手引き」は、<http://jouhouka.mext.go.jp/school.html> からダウンロードできます。

※ 上記教材は、文部科学省委託事業「情報化の進展に伴う新たな課題に対応した指導の充実に関する調査研究」の成果として公表されたものです。

各校に導入している「ジャストスマイル」（小学生用）または「ジャストジャンプ」（中学生用）には、「情報モラル実践教材」が入っていますので、ぜひご活用ください。

なお、ご不明な点は、高知市教育研究所 情報教育担当までお問い合わせください。

## 「魔法の質問で生徒に迫る ～こんなに変わる！生徒がやる気になる質問～」

講師 質問家 マツダ ミヒロ 氏

## 対人関係を図る上での『よい質問』とは？

## ■クイズ

一つの正解を求めている。



相手は、試されていると思ってしまう。

## ■疑問

質問者が知りたいことを知るために聞いている。



- ・ 回答を求める。
- ・ 確認や状況判断のために用いる。

## ■命令質問

例  
「～してみたらどうですか」「～するよね」

- ・ 柔らかく言っているが指示・命令。
- ・ 反発心を生む。

## ■尋問

例  
「なんで～しないの」

言い訳が返ってくる。

## ■質問（魔法の質問）

例  
「どのようにすれば～できると思う？」**HOWで質問を！**

対策、アイデア、行動を引き出せる。

- ◆ よい質問は、それに答えることで成長のための「気付き」を得ることができる！
- ◆ 自ら出てきた答えは身に付きやすい。相手の答えが常識から外れていれば、その先を聞く！
- ◆ テクニックよりも相手の立場に立つ・相手の気持ちになって考えるマインドが大事！
- ◆ 自分自身を満たすことができないと、人を満たすことはできない。自身の心を満たそう！

どこに目がいきますか？



人は欠けている所に目がいく習性がある。  
（脳の反応：認知的不協和）

だからこそ、**あえて欠けていないところ（できている所）に目を向けさせる！**

それが生徒の自信につながる！

【演習の一部を紹介】

Q あなたが言われてうれしい言葉は何ですか？  
（10個ほど書く）

『ほめまくりゲーム』

## ルール

- 1 心を込めてほめる（ほめられる人は順に）
- 2 順番に個々を書いた言われてうれしい言葉をテーブルの真ん中に置き、その言葉を使ってほめる。（「～に見えるよ。～らしいね。」などの言葉を付けると言いやすい）
- 3 1分間とぎれてはダメ

活動後は、どんな気持ちになるかを話し合わせる。  
子どもが言われてうれしい言葉は何かを知ることは、やる気を出させる重要な要素となる。日常の生徒とのコミュニケーションが大切！

## ほめ方のポイント

- 1 名前を添える
- 2 理由を添える

## ほめられる側のルール

何を言われても、次のような言葉を使って反応する  
「ありがとう」「そうですね」「いつも言われる！」



ほめられる機会があまりないから言葉がないという子どもがいても、必ずほめられてうれしいことがある。それを見つけるためにも**日常のコミュニケーションを大切にし、生徒理解をする。**

認める → 事実

例 宿題をやってきたんだね。

ほめる → 事実＋感情

例 宿題をやってきたんだね。よく調べてがんばったね。

## 【受講者の感想】

- ・ 私は、どうしても生徒の不十分な部分ばかり指摘してしまい、できていることを十分評価していない。努力することを当たり前と捉える傾向がある。この発想を変えていきたいと思う。
- ・ 質問の仕方一つで、相手が変わるきっかけになる。ダメな質問をいかに多く使っていたか認識できた。生徒たちができるだけやる気になるよう、生徒自身が考えや答えが導き出せるようなよい質問に変えていきたいと思う。